



共生社会システム学会ニュースレター The Association for Kyosei Studies News letter

2021年8月31日発行 第26号

目 次

1. 2021年大会（金沢大学）の開催について（第3報）	1
2. 2020年度第3回運営委員会 議事概要の報告	3
3. 編集委員会からのおしらせ	3
4. 運営委員会事務局だより	4
5. 2021年大会 個別報告プログラム	5

1. 2021年大会（金沢大学）の開催について（第3報）

2021年度大会（金沢大学）を、以下の要領で開催いたします。今大会は、対面とオンラインの双方での実施（ハイブリッド方式）を予定しておりましたが、オンラインでの開催に変更します。

オンライン参加者は事前登録をお願いします。事前登録していただき、参加費を入金いただいた方に、オンライン参加用の情報をお知らせします。

事前登録用フォーム → <https://forms.gle/4w3PcAN3mcKKwXF6>

オンライン参加者は、9月17日（金曜日）までに参加費を事前に納入してください。納入先は、会費の納入先と同じです。

- ・大会参加費 1,500円／学生は会員・非会員とも無料
（開催校企画シンポジウムのみ参加 500円）

郵便振替 00130-6-372850 （加入者名）共生社会システム学会

会員各位の積極的な参加をお願いします。

- ・日程：9月25日（土）・26日（日）
- ・会場：金沢大学角間キャンパス総合教育棟
- ・大会実行委員長：金沢大学教授 市原あかね
- ・プログラム

9月25日 14：00～17：00 開催校シンポジウム

「SDGsの現状と可能性：内発的発展論の視点から（仮）」

9月26日 9:00～11:50 個別報告, 会員企画ワークショップ
12:00～12:50 理事会
13:00～13:30 総会
14:00～17:00 15周年記念シンポジウム

「ポスト新自由主義のビジョン：コロナ禍後の社会と共生」

・開催校企画シンポジウム「SDGsの現状と可能性：内発的発展論の視点から」

SDGsは、社会的責任投資の動きと連動し企業や自治体の取り組みとして広く認識され実施されているが、環境サイドからは環境制約の位置づけが不明確だとして批判され、格差や貧困問題等に取り組む団体との連携も積極的に展開されているとは言えない。その出発点や標語「誰一人取り残さない」を見れば、SDGsが環境、格差・貧困、排除を総合的に克服するべく共生社会の実現をめざすものであることは明らかである。この理念を実現するために、学際的な教育や研究が打ち出すべきSDGs型発展の理念・現状認識・方法論はどのようなものだろうか。

今大会の開催校企画は、共催団体である金沢大学地域創造学類の協力を得て、開発問題やSDGs実践に関わる金沢大学の教員・研究者を招集した。多面的な視点からの報告を受けSDGsの現状と可能性を検討する中で、地域社会を主体とする内発的発展論を現代的に発展させ、地域開発・発展学（地域創造学類の課題）と共生社会システム学、双方の学問的充実に貢献したい。

座長：田邊浩（金沢大・社会学）

堤敦朗（金沢大・保健学）「MDGsからSDGへ 国連における検討の過程」（仮）

北村健二（金沢大・地域環境学）「地方都市のSDGsへの挑戦 珠洲市の事例から」（仮）

和田一哉（金沢大・開発経済学）「南アジアの貧困削減・エンパワーメントとSDGs」（仮）

村上慎司氏（金沢大・社会保障論）「SDGsを哲学する ケイパビリティ・アプローチの視点から」（仮）

・15周年記念シンポジウム 「ポスト新自由主義のビジョン：コロナ禍後の社会と共生」

世界的なコロナ禍のなか、社会のパラダイムやシステムは大きく変わるとされる。どのような転換点となり、どのような変化なのか。このもとでの、人と自然、人と人（社会）、人と文化（風土）の関係性と方向性とはどのようなものなのか。「共生社会」や「共生」概念に着目し、本学会の当面の「3つの課題」から接近する。

座長：矢口芳生（福知山公立大）

①地域の再生：市原あかね（金沢大）、コメンテーター：武谷嘉之

②〈農〉の再生：新井祥徳（農工大）、コメンテーター：桑原孝史（日生命大）

③他者との共生：片山善博（日福大）、コメンテーター：岡野一郎（農工大）

・個別報告プログラムは本ニュースレターの最後をご覧ください。

・懇親会はありません

2. 2020年度第4回運営委員会 議事概要の報告

日時：2021年7月18日（日） 15:40～18:00

場所：オンライン開催

出席者：矢口，古沢，荒木，岡野，吉田，新井，市原，桑原

主な議事：

1. 会誌15巻の状況

順調に編集が進んでおり，9月の大会までに発行できる見込み。

2. 2021年大会開催校からの大会準備状況（市原先生）

実行委員会を結成し，学類との共催が認められた。会場費は無料になる見込み。

学類長からの要望：教育用としてシンポジウムの状況を録画し，学類に提供。

個別報告・会員企画ワークショップ 募集〆切延長 8/15まで

シンポジウム・個別報告・会員企画ワークショップ ハイブリッドで実施

参加費 学生は全てゼロ，それ以外の正・非会員1,500円に統一。シンポ登壇者は無料

謝礼 シンポ登壇の非会員（金沢大学の地域創造学類以外の方）には支払う。

現地会場で紙資料を配布する。内容は全体プログラム，シンポの概要4ページ/人（締切8月末）

3. *2021年大会での15周年関連企画の進捗状況（岡野委員）

7/18 13:00～ 打合せを行った。

4. 2022年度以降の大会開催校の選定（矢口会長）

以下の大学で、大会開催の内諾を得た。

2022年 東京大学

2023年 宇都宮大学

5. 会員動向（稲村委員）

3名入会（すべて学生会員），2名（正1，学1）退会

6. 会費値上げの検討

学会事務局体制の強化に合わせて，会費値上げの議論を開始する。学会誌の発行形態も変化（例えばオンライン化）を連動させて考える。

会費減免制度の創設を2021年大会で提案したい。

3. 『共生社会システム研究』編集委員会からのお知らせ

『共生社会システム研究』第16巻への投稿原稿を募集します。ふるってご投稿下さい。

締切日は2021年11月1日（月）です。締切日を超えた投稿については，原則，次巻（第17巻）

掲載の原稿として取り扱いますので、あらかじめご承知おき下さい。

投稿にあたっては、指定のフォーマットを使って原稿を作成していただきます。このことを含め、当学会ウェブサイトに掲載された投稿規定、執筆要領をよく読んで原稿を作成し、投稿してください。

◎今回、学会15周年を記念して、特集論文を募ります。本ニュースレター記載の記念シンポジウムの欄に挙げられている3つの課題「地域の再生」「〈農〉の再生」「他者との共生」に関する論文、あるいは「共生と共生社会」に関する論文をふるってご投稿下さい。なお、この特集論文として投稿される際は、投稿票の種別の欄に「特集論文」とご記載下さい。執筆要領などは通常の「論文」と同等です。

原稿の送り先：

東京農工大学工学部知能情報システム工学科

『共生社会システム研究』編集委員長 岡野一郎

E-mail: i-okano☆cc.tuat.ac.jp (☆を@に変えて送信してください)

4. 運営委員会事務局だより

ニュースレター26号をお送りします。

昨年は、会費徴収の遅れ・学会誌発行の遅れなどの問題がありましたことを改めてお詫び申し上げます。ただいま事務局機能の立て直しを進めているところです。

会費の請求書がお手元に届きましたら、2021年度会費の納入をお願いいたします。会費は、一般会員 6,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員 20,000 円となっております。よろしく願い申し上げます。2020年度以前の会費を未納の方は、未納分も含めて納入をお願いいたします。

皆様からのニュースレター原稿を募集しております。会員の活動紹介等も歓迎いたします。投稿は吉田(HALLA☆cc.tuat.ac.jp ☆を@に変えて送信してください)までお送りください。

共生社会システム学会ニュースレター 第26号 2021年8月31日発行

編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局

連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学農学研究院 吉田 央研究室 気付

TEL: 042-367-5588 E-Mail: HALLA@cc.tuat.ac.jp

郵便振替 00130-6-372850 (加入者名) 共生社会システム学会